

世界経済の見通し

—米中貿易戦争は2020年に終わるのか

BNPパリバ証券チーフエコノミスト

河野 龍太郎

- * バブルなくして完全雇用なし
- * 加速する労働節約的なイノベーション
- * パウエルFRB議長発言の真意
- * 逆転し始めた世界の製造業シェア
- * 中国封じ込めで民主・共和が相乗り
- * 米中貿易戦争を止められない中国側の事情
- * 見え始めた第3次グローバルゼーション
- * 終わらない格差拡大とバブルの再燃
- * トウキデイスの罫は起こるか
- * 放置された所得再分配のツケ



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

最初に連絡事項がございますが、11月13日に恒例の事業所見学会がございます。ちよつとまだお申し込みが少ないので、ぜひ検討いただきたいと思ひます。日清製粉の、残念ながら館林の工場は見学しないのですが、数年前にできました資料館がございます。私も開館のときに見せていただきましたが、日本の製粉業の最初から、非常に貴重なものを見ることが出来ます。それから、日本の産業の発展がどう行われたかということもそれでわかる。あるいはご興味があるかどうかわかりませんが、皇室関係のものもございますので、ぜひ1度拝見されると思います。

今日は、よくご存じの河野龍太郎先生におい

ていただきました。横浜国大、住友銀行、それから現在はパリバということで、日本を代表するアナリストの一人でございます。

アベノミクスが続いているわけでございますが、どうやら世界の情勢がたいへん危なくなつてまいりました。先生も前においでいただいたときに、18年まではいいけれども19年はどうかと、心配があるというお話でしたが、少し前倒しで今世界がマイナスのほうに移りつつある。特に新興国や日中の貿易戦争、あるいはヨーロッパの混乱、いろんなことが来年吹き出してくる。そうすると、低成長が続いている日本がどうかというのはいへん懸念されることだと思います。

そういう意味で、その辺のことも含めて先生